

付録 25

この世の終末

(神は) 未来を知る御方であり、
そのような知識を誰にも明かすことを許されない。
ただし、神が選ばれた使徒たちを通してのみ、
未来と過去の出来事を明らかにされる。

(72:27)

神の「契約の使徒」として私に課された使命の一つは、この世の終末を明らかにすることである (415 ページ参照)。18:7-8 および 69:13-15 から、この世界が終わりを迎えることが分かる。そして現在のもろもろの天と地は、新しいもろもろの天と新しい地によって置き換えられる (14:48)。

この世の終末が近づいているしるし

コーランは多くのしるしを示しており、この世の終わりを明らかにする手段がすでに与えられていると述べている (47:18)。

コーランに示されるしるしには次のものが含まれる：

- 1. 月の分裂：**これはすでに起こった。1969 年 6 月、人類が月に着陸し、月の岩石を持ち帰った出来事である。現在では地上の多くの博物館、大学、天文台で月の破片を見ることができる。
- 2. コーランの「19」に基づく数学的コードの発見 (74:30-37)：**これは 1969 年から 1974 年にかけて成就した。
- 3. 創造物 (27:82)：**「地から作られ、人々が創造主を忘れていたことを知らせる存在」。この「創造物」は地上で作られ、コーランの数的コードを明らかにするうえで重要な役割を果たし、世界が神のメッセージを軽視してきたことを宣言した。この創造物とは **コンピューター** のことである。なお、27:82 の数字を足すと 19 になる。
- 4. 神の「契約の使徒」の出現 (3:81)：**付録 2 で詳述されているように、クルアーンによって預言された統合の使徒が、すべての預言者が聖典を届けた後に現れ、宗教を浄化し統一する。この預言は ラマダーン 1408 年に成就した。
- 5. 煙 (44:10)：**これは、神の「契約の使徒」が統一されたメッセージを伝え、サブミッション (イスラム) が神に受け入れられる唯一の宗教であると宣言した後に起こる。

6. **ゴグとマゴグ**：神の計画に従い、1700 AH（2271 年）に再び現れる。ゴグとマゴグは 18:94 と 21:96 に言及されている。18:94 から第 18 章の終わりまでの節を数えると 17 節。21:96 から第 21 章の終わりまで数えても 17 節。このことが、1700 AH にゴグとマゴグが再出現するというコーランのしるしである。

それは隠されたままではない（20:15）

第 20 章第 15 節は、この世の終末が訪れる前に、その終末が神によって明らかにされることを示している。そして第 15 章第 87 節は、その出来事の時を示している：

「われらはあなたに七つの対（ペア）と偉大なコーランを与えた。」（15:87）

この「七つの対」とは、コーランに現れる 14 のイニシャル（神秘文字）のことである。コーランの奇跡的構造を支えるこれらの重要な要素のゲマトリア値（文字数値）の合計は、世界の終末の年を示している。注目すべきことに、第 15 章第 85 節は次のように述べている：「この世の終末は必ず到来する。」次の節（15:86）は、神がこの世の創造主であり、当然ながらこの世がいつ終わるかをご存知であることを述べている。そしてその次の節（15:87）が、世界がいつ終わるかを示しているのである。表 1 に示されているように、「七つの対」と呼ばれるコーランのイニシャルのゲマトリア値の合計は 1709 である（付録 1 の表 1 も参照）。15:87 によれば、この預言がコーランの中で述べられた時点から 1709 太陰年（ヒジュラ暦の年）のあいだこの世は存続する。つまり、この世の終末は 1710 AH の年に起こることになる。この数もまた 19 の倍数である： $1710 = 19 \times 90$ 。

表 1：「七つの対」とされるクルアーンのイニシャルのゲマトリア値合計

クルアーン のイニシャル	ゲマトリア値
-----	-----
1. Q	100
2. N	50
3. S (Saad)	90
4. H.M.	48
5. Y.S.	70
6. T.H.	14
7. T.S.	69

8. A.L.M.	71
9. A.L.R.	231
10. T.S.M.	109
11. `A.S.Q.	230
12. A.L.M.S.	161
13. A.L.M.R.	271
14. K.H.Y.`A.S.	195

	1709

この情報が明らかにされたのは 1400 AH（ヒジュラ暦）の年であり、これは預言されたこの世の終末（1710 AH）より 309 年前にあたる（ $1710 - 1400 = 309$ ）この 309 という数字はコーランに登場する数字であり（18:25）、この世の終末とも関連している（18:21）。18:25 において 309 は「三百年、さらに九年を加えたもの」という特異な表現で書かれており、これは 309 年が太陰年（イスラム暦）を指していることを示している。300 太陽年と 300 太陰年の差は 9 年である。この発見の年 1400 AH は西暦 1980 年に一致している。そして、1980 年に 300 太陽年を加えると 2280 年となり、これはまた 19 の倍数である： $2280 = 19 \times 120$ したがって、この世は 1710 AH（ 19×90 ）に終わりを迎え、それは西暦 2280 年（ 19×120 ）に一致する。これらの強力なコーラン的証拠を受け入れない不信仰者にとっては、世界の終末は突然訪れるだろう（6:31, 44, 47；7:95, 187；12:107；21:40；22:55；26:202；29:53；39:55；43:66；47:18）。

ハディースは宗教的教義の源としては禁じられている（付録 19）が、歴史の資料としては有用である場合がある。初期イスラム時代の歴史的出来事や地域の習慣・伝統について、多くの情報を得ることができる。ハディースの諸書は、コーランの「神秘の文字（イニシャル）」が、イスラム共同体ウンマの寿命を決定するものと信じられていたことを示唆しています。アル＝バイダーウィーによる古典的な注釈書は、神秘の文字の解釈として可能性のある、次のような歴史的事象を引用しています。同様の事象は、アル＝スユートイー著『イトカーン 1318 AH 初版、第 2 巻、10 ページにも詳しく記されている：

マディーナのユダヤ人たちは預言者のもとへ行き、こう言いました。「あなたのクルアーンには『A.L.M. (アリフ・ラーム・ミーム)』というイニシャルが付されているが、これらの文字はあなたの宗教の寿命を決定するものだ。『A』は1、『L』は30、『M』は40であるから、これはあなたの宗教がわずか71年しか存続しないことを意味している。」ムハンマドは「私たちには『A.L.M.S. (アリフ・ラーム・ミーム・サード)』もある」と言いました。彼らは「『A』は1、『L』は30、『M』は40、『S』は90だ。これを足すと161になる。他にも何かあるのか？」と言いました。預言者は「ある、『A.L.M.R. (アリフ・ラーム・ミーム・ラー)』だ」と言いました。彼らは「これはさらに長く、重い。『A』は1、『L』は30、『M』は40、『R』は200で、合計は271になる」と言いました。彼らはついに、「彼（ムハンマド）がこれらのイニシャルをどれほど多く与えられているのか、我々には見当もつかない！」と言って諦めました。

[アル=スユートイーの有名な典拠『イトカーン (ITQAAN)』より]

この物語（伝承）はよく知られていますが、多くの学者は、クルアーンの「イニシャル（神秘の文字）」と世界の終焉との間にある明白な関連性を認めることをためらってきました。彼らがこの主題に踏み込むことができなかったのは、単に、この計算が「世界の終わり」と「審判」を避けることのできない現実のものとして突きつけてしまうからに他なりません。